

教科「地歴公民」

科目「世界史探究」

(3年次文型 生物基礎探究・発展
現代文との選択)

単位数	2単位
担当者	大谷拓郎
教科書	改訂版詳説世界史B (山川出版社)
副教材等	グローバルワイド世界史図表 (第一学習社) 必携世界史用語 (実教出版) 新世界史要点ノート応用編 (啓隆社)

【1】 科目の目標

グローバル化する現代にあるが、むしろ地域間の差異は一層際立ってきている。歴史的な観点からそうした差異に目を向けることによって異文化理解を進めるとともに、今自分が暮らす現代という時代の特色を明らかにし、世界史を学ぶ大切さや面白さを知る。

【2】 科目の内容と進め方

- 1 学期：テーマ史ごとの振り返りをおこない、その関連性を考察する。
- 2 学期：自らの興味関心に応じてテーマを設定し、多面的に探究する。
- 3 学期：研究内容をレポートにまとめ、討論活動を通じて深めていく。

【3】 学習形態

基本的には教室でおこなうが、必要に応じて図書館や情報教室なども活用していく。座学だけではなくグループ学習やペアワークなども随時おこなう。

【4】 学習上の留意点

通常の授業は、教科書に従ってどうしても通史的な内容となってしまう、自分の興味関心に基づいて歴史という教材を深めることが難しい。この授業では、様々な教材の宝庫でもある世界史を自分なりの切り口で探究することで、歴史本来が持つ面白さに気づかせたい。またそれを他者の歴史との相互理解にまで高めることで、将来的に国際社会に貢献できる資質と意識を養う。

【5】 評価の方法と評価の観点

① 評価の観点

- 1 関心・意欲・態度：テーマごとの歴史の推移・展開についての関心を高め、現代とのつながりも意識しながら歴史事象の意味を主体的に考察しようとしたか。
- 2 思考・判断・表現：歴史の推移を因果関係に基づいて追究し、根拠を示して歴史の展開を説明できたか。
- 3 資料活用の技能：各種資史料を収集し、読み解き、活用して歴史事象を分析・説明できたか。
- 4 知識・理解：テーマごとの歴史の推移・展開を、歴史的背景や因果関係と関連付けて理解できたか。

② 評価の方法

- ・ 定期考査での評価はせず、課題学習や演習への取り組様子や、またその内容および提出状況などで積極的に学習に取り組む態度を評価する。
- ・ レポート作成においては、使用する史料への理解や妥当性、また論理的な論述になっているか、そして視覚的な面においても伝わりやすい内容になっているかなどの観点から評価する。
- ・ 研究発表では、明確な根拠に基づき理路整然とした内容であるか、また討論では他者の意見も考察を深める助けとできているかを評価する。

【6】 その他 なし